

終運報内第一一編

陸軍省 陸軍部 陸軍事務官

昭和二十一年十一月廿七日

陸軍省 陸軍部 陸軍事務官

日誌用

陸軍省

陸軍部 陸軍事務官

普通

引揚關係 G H Q 連絡事項 十一月廿六日

六ギヤラップ中佐より本年内に G A P の統制配船によつて一萬六千名の邦人が臺灣より引揚げることとなつた旨連絡あつた。

右第一船は十一月廿七日宇品一熊野丸を出帆夫々三千名及二千名の邦人を臺金より積込みたる旨。

尙右とは別に中國籍臺南丸も臺灣殘留邦人を送還し、年内に送還す

べき日本人社長引揚げしむる由。

右石垣宮古向最終船は十一月三十日より十二月十日に遅延された。

右は現在鹿兒島、名古屋に夫々石垣向宮古向琉球人百名づゝしか集

0081

1199

つてゐない爲である。

三、琉球へ遺骨遺品送還に關する沖縄縣人聯盟の申請については、
より正式ノートにて正確なる容積・重量を記載し、且引揚といふ言
葉を使はず「故人の遺骨及遺品の輸送」の語を使つて申入れてほし
い。本件は④及⑤で取扱ふこととなる旨ウ下中佐より連絡があ
つた。

四十一月二十五日接護局滞留琉球人は左の通り

名古屋 一〇二二 宇品 九七二 佐世保二六九九

鹿兒島 三八二九

尙九州現地軍より琉球人集結に關し左の通り報告があつたが右の通
りなりや取調べてほしい。

十一月廿七日迄に鹿兒島に五七二五 佐世保に四八四七

十二月一日迄に 二五五二

十二月十日迄に佐世保に二三〇四